愛知県産業労働計画策定委員会各部会の議事要旨

第４回 愛知県産業労働計画策定委員会 労働部会議事要旨

日時：平成 27 年 11 月 27 日（金） 午前 10 時から正午まで
場所：愛知県産業労働センター14 階

○あいち産業労働ビジョン 2016-2020（仮称）の案について、これまでの委員の意見が反映されている内容となっているとの意見が大勢を占め、策定委員会にこの案を出すことについて了承された。

（全体）
・わかりすく、目指すことが見えているので、異論はない。
・全体としては、具体の目標設定もされており、要領よくまとまったという感想である。
・この案で委員会に出していって良いということではないかと思う。
・ここ20年間、働き方が変わっておらず前例踏襲でやってきたこと、非正規労働者に訓練がされておらず教育訓練をおろそかにしてきたこと等により、労働のイノベーションが伸びず、経済が成長していない要因になっている。今回の産業労働ビジョンが労働生産性の向上に貢献できるようにしていただきたい。

（若者の問題）
・２０才前後で就職活動に失敗するとそれがずっと続くという状態をどうするかが問題。就業の支援だけでは駄目で、福祉、教育との連携が大事。
・中小企業では人手不足であるが、働きたい職種と企業が欲しい職種がマッチしていない。
・キャリアパスを示すなど中小企業自身がその魅力を高める取組も重要。
・一度躓いた方をサポートするメンター役のコーディネーターが必要。少しずつ精神的に成長させていくことが有効であり、自分が必要とされていると感じることが大事。
・引きこもった若者にどうやって支援の情報を届けるかが難しい。ヤング・ジョブ・あいち、若者サポートステーション、市町村の広報でもなかなか来ないのが現状。

（女性の問題）
・シングルマザーの家庭では生活困窮度が高い。親の精神的不安定さが子の不登校に大きく影響しており、ニート、就職困難者になる確率が高くなる。課題を抱える女性たちに寄り添えるようなサービスをきちんとやっていくことが、次の世代の若者たちの人材を育てることになる。
・子育て女性再就職支援センターは、受け入れる会社の開拓が必要と感じているところ。

（障害者の活躍）
・特別支援学校の目標値（就職率５０％）というのは、現実からいくと難しい。先生方に、障害者を雇用している企業に足を運んでもらって、企業が何を考えているのか、現場に出て肌で感じることが重要。
・５０％という目標値は高いが、きめ細やかに、息の長い取組で達成は可能ではないか。
・法定雇用率は、50 人未満の企業がカウントされていない。愛知県の 50 人以上の企業でも半数以上は法定雇用率を守っていないことも問題だが、もっと広く 50 人未満でも一人は雇用しようという

雰囲気が大事であり、そのための連携が重要。
・助成金は、お金が切れたらもういりませんということにもなってしまうおそれがある。社会の一員として障害者を受け入れる気持ちをサポートしていくことが一番大事。

（外国人の活躍）
・学校の現場ではある程度、日本語教育を実施し、定着してきている。現場の先生は地道に努力しており、そのノウハウを財産として捉えることが大事。日本語教育を熱心にやっている学校、ＮＰＯ、ボランティアといった裾野は他県にはない財産であり、今後どのように発展させていくかという視点が大事。
・この地域では、外国人の受入をゆくゆくは考えないといけない。単純労働ではなく、高度な産業人を受け入れる必要がある。一番のネックは家族で来るので教育の環境をどう整備するかということ。長期的に考えていく必要がある。

（ワーク・ライフ・バランス）
・ワーク・ライフ・バランス推進協議会にも参加しているが、定時退社に関する啓発活動が年１回ではなく、最低限月１回程度やった方がいいのではと思っている。
・最終的には、総労働時間の短縮が重要であり、それによって働き方など全ての問題がクリアされると思う。
・介護についても認識いただき有難い。進捗管理指標に入っていないのは、少し寂しいが、これからの問題であるので、その点を考慮に入れながら取り組んでいただければと思う。

（人材育成）
・中小企業の人材育成の支援に力を入れていくという視点で記載されており、内容はこれでよいのではないか。
・キャリア教育は、各部局が有機的にやっていくことが重要。企業の人を育てる文化の育成が大事であり、特に中小企業に対して、育てる文化をどうサポートするかが本質的な課題だと思う。
・自分の夢を考えるキャリア教育も大事だが、失業など将来のリスクを考えるキャリア教育も必要。不確定要素の多い世の中だからこそ、課題にぶち当たった時にどう乗り越えていくのか、そういう状況が起こった時のリスクを学ぶことが必要と思う。

第４回 愛知県産業労働計画策定委員会 産業部会議事要旨

日時：平成 27 年 12 月 2 日（水） 午前 10 時から正午まで
場所：愛知県産業労働センター18 階

○あいち産業労働ビジョン 2016-2020（仮称）の案について、全体としては問題ないとの意見が大勢を占め、一部修正を加えた上で、策定委員会にこの案を出すことについて了承された。

（全体）

・パブリックコメントの対応はしっかりやっていただいており、ビジョンも具体的に書いて頂いていると思う。
・「中小・小規模企業」の他、「中小企業」「中小企業者」「中堅・中小企業」などといった用語の使われ方があり、きちんと意識されていれば良いが、言葉の使い分けには留意してほしい。
・他部局との連携なしに進めていくことができないものが増えていると思うので、他部局と連携して進めて欲しい。
・次世代自動車や航空機、ロボットなどの分野は一定やってきているが、ベースの部分であるサービス産業振興、経営革新による生産性向上などについて、しっかりと取り組んでいきたい。

（中小・小規模企業への支援）

・大企業の好業績の波及は限定的である。このビジョンでは難しいが、何とかならないものかと思う。
・経営革新については、目標化されており非常によいと思うが、インセンティブが弱いため、なかなか数字が伸びてこない。何らかのプラスαのメリットをつけた施策、わかりやすいインセンティブが必要。
・都市部では巡回指導に行っても不在の場合が多く、小規模企業へのアプローチが難しい。また、良い条件を揃えていても、そこへ出て行く時間があれば、今ある仕事をこなすという経営者が多く、拾い出しをしていくことが必要。小規模企業をサポートする体制づくりが大事である。
・返済猶予や軽減が必要な取引が金融円滑化法の後遺症として残っており、ソフトランディングの対応も検討課題の一つかなと思う。

（サービス産業、観光等の振興）

・ソーシャルビジネスは、支援をするかしないかではなく、どのような支援するかが大事。また、「起業」の支援だけでなく、その後の「経営」を支援していただき、地域にとって欠かせない存在になるまで見守っていただくことを期待する。
・サービス産業の生産性向上に関する国の方針は、中堅企業や中小企業でも上のレベルを考えているのかなという印象を受ける。県では、もう少し零細企業向けの施策を考えられたら良いなと思う。
・サービス産業は幅広いので、世の中から求められているものをあぶり出し、集中投資すべき。
・金融機関では、地方創生の取組の中で文化振興を通じて地域の活性化に繋げていくという考え方が強くある。産業に密接に関係する文化を振興していくという視点をもう少し入れると、一般の方から見てわかりやすく理解が得られやすいと思う。
・「観光＝インバウンド」になりがちだが、観光客の9割を占める国内観光の視点がしっかりと記載されており、

良いと思う。なお、目標にある「観光消費額」のための施策があまりないので、商業施設・宿泊施設の整備促進、多言語案内の充実、乗り換えの利便性向上など、受入環境整備の施策がもう少しほしい。また、昇龍道の中核県として、近隣県と連携してプロモーション等に取り組むと書いて頂けると心強い。

（次世代産業、研究開発機能の強化）

・次世代自動車、自動走行の技術により、自動車の構成部品は劇的に変わる。内燃機関を前提とした産業集積が変わらなければならなくなる可能性があることは大きなリスクである点を記載して欲しい。
・自動運転はインフラが大事。ロボットに関しては、これから自立化が進んでいき、道路環境や色々な環境を自立して認識した上で自動走行する時代になっていくと思う。
・航空機産業でも10年前に言い出した時はあまり乗ってこなかった。ロボット、次世代自動車など10年くらいかかるものもあれば、ICTのように2～3年で目が出そうなものもある。時間軸を意識しながら、見直しを加えながら対応していくことが必要。
・航空機産業の中での中小企業の役割は加工が中心であったが、最近では品質保証体制が整わないと海外との取引ができない。海外では大型設備を入れ自働化が進んでおり、日本は遅れをとっているので、設備投資の支援を頂けると有難い。また、クラスター形成について愛知県は航空機産業が定着して良いということはなく、長崎県や広島県の方にも流れて行ってしまっているので、もう一度この地域に対する支援をお願いしたいと思う。
・国の無利子融資が今年3月に終わってしまったが、利用者も多かった。省力化につながる設備を入れたい企業も多く、なぜなくなったのかという利用者の声もあったので、県が取り組んでも良いかなと思う。
・iPhoneの部品の7割は日本製であるが、利益の多くはアップルであるように、モノを造っているところよりもコンセプトを考えているところの方が利益になるというビジネスモデルがある。そうした視点を持って、次のモノづくり・サービス産業の生産性の向上を進めていく必要がある。
・補助の中には、研究開発用の人件費が出ないなど制度上の問題もある。ハードの研究開発機能の強化だけでなく、研究補助のようなソフトのところを、もう少し見てもらえると有難い。
・産学等のソフトな交流・連携の仕組みが考えられないか。 名古屋駅の再開発の中に、東西交流の中核となるような場所・機能みたいなものが組み込めるといい。

（就労促進、人材育成）

・就労支援について、利用件数のみの指標だと効果を見損ねることがあるので、推進にあたっては、就職や定着といった指標も含めて評価することを検討いただければと思う。
・航空機産業の人材育成を取り上げていただき有難い。ただ、日本には航空機産業のワーカーが少なく、働けるようになるまで入ってから3年はかかるので、今いる人材の離職率を下げることが大切。
・キャリア教育において、技術者になろうとする子をその方向に導くことが大事であり、総合工科高校や工業高校から大学に進むような優秀な子を育てるといった、本質的ところをやって欲しい。